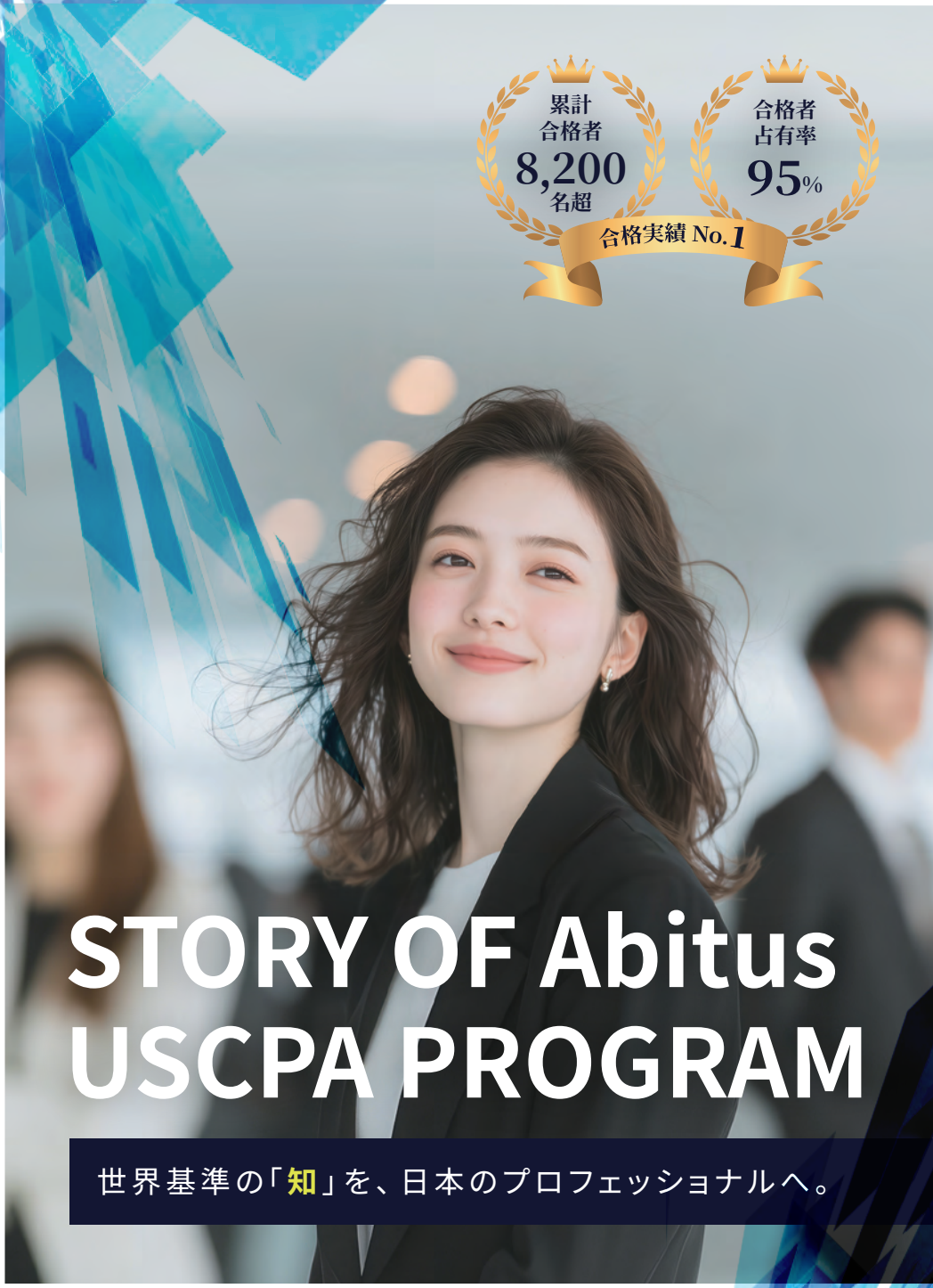


STORY OF Abitus USCPA PROGRAM

世界基準の「知」を、日本のプロフェッショナルへ。

すべての国境を越える、たった一つの言語

ビジネスの世界には、国境や文化、あらゆる壁を越えて通じ合う
「共通言語」がある。
―それが、「**会計**」だ。

グローバル化が加速し、企業が国境を越えて資本を集め、事業を展開する現代。
世界のビジネスルールを深く理解し、数字を駆使して未来の戦略を語る力は、
すべてのビジネスリーダーにとって最も強力な武器となった。

その武器を手にする方法は、一つではない。
しかし、今、最も確かな選択肢が何かと問われれば、
私たちは迷わずこう答える。

米国公認会計士(USCPA)

それが、答えだ。

そして、この物語は、その答えにたどり着くまでの、一つの企業と、
そこに集った人々の軌跡である。



1995年、アビタスの原点
—「見えない壁」との闘い

時計の針を、1990年代半ばへと戻そう。
当時の日本には、高い志を持つ者がその舞台へ上がることを阻む、**「見えない壁」**が存在していた。
USCPAという国際資格に挑もうとする者を待ち受けていたのは、
日本語の教材もなければ、頼れる情報もほとんどないという、絶望的な環境だった。

分厚い英語の専門書と、複雑怪奇な受験手続き。
その壁の前で、多くの志ある人材が、挑戦する機会そのものを奪われていた。

「高い志を持つ日本人が、環境のせいで世界基準の知識にアクセスできない。これは、日本のビジネス界にとって計り知れない損失だ」

創業者のそのような原体験から、1995年7月、一つのスクールが産声を上げる。
「株式会社U.S.エデュケーション・ネットワーク」—現在のアビタスである。

都心の小さな雑居ビルの一室で、教材は手作りされ、
講師も自らが務めるところから、すべては始まった。
翌1996年、日本で初めてとなる完全日本語版のUSCPAオリジナル教材が完成する。
米国カリフォルニア州立大学との提携により、日本の社会人がUSCPAの受験資格を満たすための独自の仕組みも築かれた。

「日本人が世界基準へ挑戦できない環境」そのものを、変えること。
それが、アビタスという企業に与えられた、最初の使命だった。

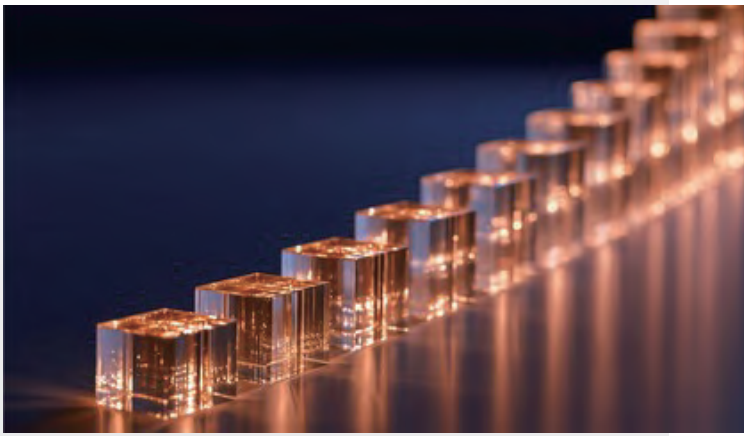
そしてこの使命は、
「日本のプロフェッショナルを世界基準へと導き続ける」
という揺るぎない意志として、
以来**30年以上にわたり、脈々と受け継がれていく**ことになる。

実績が証明する、揺るぎない事実

「累計合格者数8,200名突破」
「アビタスの日本合格者占有率 95.4%」

アビタスやUSCPAをWEBで検索したことがある人は、
一度はこのようなフレーズを
目にしたことがあるのではないだろうか。
日本在住のUSCPA合格者のうち、実に10人中9人以上が
アビタスの卒業生である。
この数字は、偶然の産物ではない。

他校には決して真似できないアビタスの「総合力」
占有率は、右肩上がりに伸び続け、この数字はむしろ加速している。
それは、アビタスという「合格に資するすべてを揃えた仕組み」が、
世代を超えてなお進化し続けている、何よりの証明である。
しかし、数字だけでは語りきれないものがある。
“8,200”という数字には、アビタスが持つ
「教育の力」と**「受講生達の人生の物語」**が宿っている。



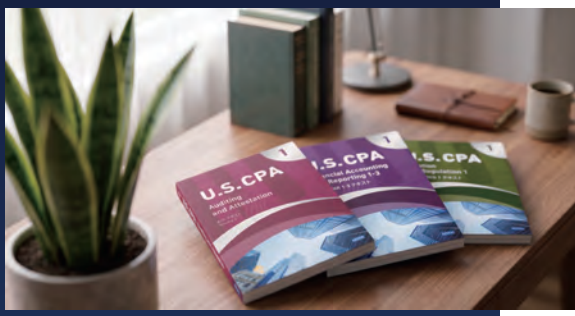
他校には決して真似できない
アビタスの「総合力」

なぜアビタスは、
日本のUSCPA合格者の95.4%を輩出できるのか。
答えは一つではない。

合格に必要なすべての要素を、
業界最高水準で揃えているからだ。
私たちはそれを断言する。



総合力 01 教材開発力



私たちが提供する完全日本語版
オリジナル教材は、
単なる英語からの
翻訳物ではない。

「インプットは日本語で
本質を理解し、
アウトプットは英語で行う」。
これは、日本人の思考回路に最適化された、アビタス独自の
Learning Designである。

1996年に日本初の完全日本語版教材を世に出して以来、
試験制度が変わるたび、**業界最速レベル**で改訂を重ねてきた。

その姿勢を象徴するのが、近年最大の試験制度改定となった
「**2024年 CPA Evolution**」である。

制度が大きく変わるこの改定に対し、アビタスはいち早く対応。
競合各社に先駆け、改定内容を反映した教材をいち早くリリースした。

しかも、単に主要科目だけを対応させたのではない。
新たに加わった3つの選択科目を含む、全6科目の教材をいち早く提供した。

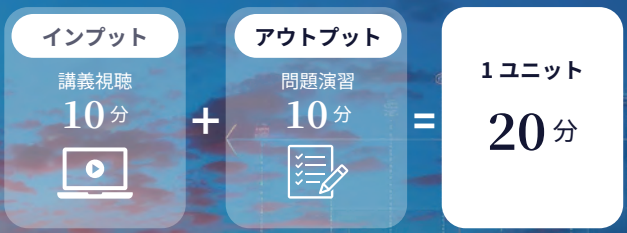
制度変更によって学習者の選択肢が広がる一方、
選択科目への対応が困難となり、この市場から撤退する事業者や、
一部科目の教材提供に至らない事業者も存在した。

変化する制度に、どこよりも早く対応する。
そして、必要とするすべてを、最後まで揃える。
それが、30年以上にわたりアビタスが貫いてきた教材開発
の思想である。
この教材開発の蓄積は、一朝一夕には真似できない。
その象徴が、アビタス独自の学習メソッド
「スモールユニット方式®」である。

他校が真似ようとしても、そこには辿り着けない。
私たちが30年かけて磨き上げてきたのは、教材の中身だけではない。
学習の「設計」そのものだったのである。

スモールユニット方式®

すべての教材コンテンツを、トピックごとに細かな「ユニット番号」で紐付け、
インプット(講義視聴)とアウトプット(問題演習)を平均20分という一つの
単位で完結させる。
通勤電車の中でも、休憩の10分でも、学習は止まらない。
全教材をオリジナルで作り上げてきたアビタスだからこそ実現できた、
この設計思想は、2025年3月3日、正式に商標登録が完了した(登録番号 第6903007号)。
「スモールユニット方式®」という名前そのものが、
もはやアビタスだけの資産なのである。



総合力 02 講師

USCPAという資格は、実務で使えなければ意味がない。
アビタスの講師陣は、単に試験に詳しいだけの存在ではない。
実務の現場と教育の現場、その両方を知り尽くした専門家だけが、
教壇に立つことを許されている。

アビタスの講師は、**例外なく全員がUSCPAホルダー**である。
ある者は大手監査法人で金融機関に対する会計監査や
IFRSコンバージェンスアドバイザリー業務を担い、
ある者は事業会社で経営企画や海外子会社管理の仕組みづくりに
携わってきた。

伊藤 勝幸
Katsuyuki Ito

【保有資格】
USCPA
CIA
IFRS Certificate



八野 寿典
Hisanori Hachino

【保有資格】
USCPA
CIA
CFE



原 光代
Mitsuyo Hara

【保有資格】
USCPA



浅野 貴生
Takao Asano

【保有資格】
USCPA
IFRS Certificate
CISA
CAMS-Audit



長谷川 智彦
Tomohiko Hasegawa

【保有資格】
USCPA



河 和機
Kazuki Kawa

【保有資格】
USCPA



教壇に立つ前に、ビジネスの最前線でその知識を実際に使い、
その価値を自らの手で証明してきた者だけが、「講師」としての資格を得る。

だからこそ、**彼らの講義は教科書の受け売りではない。**

「この知識は、実務のどの場面で、どう使われるのか」という一段深い理解を、
受講生に届けることができる。





総合力 03 学習メソッド

長期間にわたる学習は、孤独との戦いでもある。
短いに越したことはない。

アビタスは、30年間で積み上げてきた
受講生データ、学習カウンセリングデータ、そして合格者データを武器に、
多忙な社会人や学生が最短距離で合格にたどり着くための道筋を、
感覚ではなくデータで示す。

その象徴が、模擬試験と過去問演習だ。
アビタスの模擬試験は、実際の試験時間・問題数を忠実に再現し、
全問に日本語解説と解説動画を付与している。

その完成度は、**全科目合格者の実に9割以上が**
「模擬試験が合格に役立った」と回答している
という事実が物語っている。

さらに、AICPA(米国公認会計士協会)が公開する過去問10年分以上(Released Question)を日本語解説付きで提供しているのは、**業界でアビタスだけ**だ。

「どの単元でつまずく学習者が多いのか」
「どのタイミングでモチベーションが下がりやすいのか」

感覚や経験則ではなく、蓄積されたデータそのものが、
一人ひとりに最適な学習の道筋を照らし出す。

これが、**アビタスの「受かる」学習メソッドの正体**である。

総合力 04　「挫折させない」学習サポート

私たちは、ただ知識を
提供するのではない。
合格という「結果」を
つかみ取るその瞬間まで、
一人ひとりに深く伴走し、
決して手を離さない。



この「**挫折させない**」
という執念こそが、
圧倒的な占有率の土台になっている。

学習期間中の質問は、受かるまで何度でもできる。
オンラインでの個別質問に加えて、複数人で参加できる「質問教室」や、
受講生がつまずきやすい単元を扱う「問題演習教室」を定期的に開催し、
一人で悩む時間そのものを短くしている。

さらに、学習経験者であるカウンセラーが、マンツーマンで
学習相談に応じる制度も用意した。

効率的な学習方法や苦手科目の克服法、受験直前期の時間の使い方まで、
生きた情報を惜しみなく共有する。
受験手続きやライセンス申請という、地味だが挫折の原因になりやすい
事務作業についても、詳細なマニュアルとマンツーマンの相談体制で
最後まで伴走する。

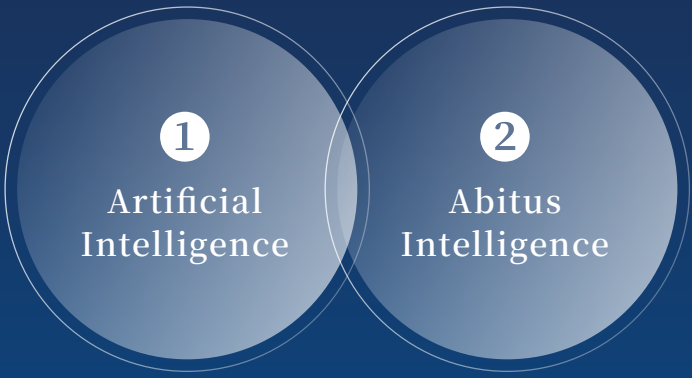
知識を教えるだけでは、人は最後までたどり着けない。
私たちは30年間、誰よりも深く理解してきた。

総合力 05　2つの“AI”

そして今、私たちはすべての教育資源に、
最新の人工知能=“❶Artificial Intelligence”を掛け合わせている。

汎用的なAIをベースとしながらも、
30年分の受講生データと創業以来磨き続けてきた知見を融合させた、
他校には決して実現不可能な学習インフラ。

ーそれが“❷Abitus Intelligence”である。



アビタス USCPA AI 学習コーチ

24 時間いつでも学習法相談にお答えします



アビしば

受講生の学びを応援するために生まれてきた、しばいぬの男の子。
日々の努力を継続し、あきらめる事なくゴールできるよう、
アビしばはいつもあなたに向き合います。

どこでつまずくのか。
どうすればモチベーションを維持できるのか。
多忙な社会人や学生が、最短距離で結果を出すための最適解は何か。

この問いに対する答えを、私たちはすでに、
30年分のデータという形で手にしている。

単なる汎用AIには、この蓄積を持つことができない。
だからこそ、私たちがAIに求めるのは「効率化」だけではない。
人が人を支え、人が自らの限界を突破するための、
最も洗練された学習生態系を作り上げること。

それこそが、
“Abitus Intelligence”という名前に込められた、私たちの意志である。



総合力 06　世界とのつながり

アビタスの強みは、教材や学習テクノロジーだけではない。
USCPAを取り巻く世界の動きを、
誰よりも早く知り、日本の受験生へ
届ける。
そのための国際的なネットワークも、
私たちは築いてきた。



この度、全世界でUSCPA教育を提供する
事業者が参加する業界団体、APACPAに
おいて、**アビタス会長・宇坂純** が副理事長(VP)に就任した。

APACPAには、UWorld、Becker、Gleimをはじめ、
世界各国でUSCPA教育を担う主要プレイヤーが参画している。

さらに、APACPAはUSCPA試験を取り巻く重要な機関である
AICPAやNASBAとも定期的に情報を共有している。

試験制度は、変わる。
出題傾向も、ルールも、受験を取り巻く環境も変わっていく。

だからこそ、重要なのは「今ある教材」だけではない。
世界で何が起きているのか。試験はこれからどう変わるのか。

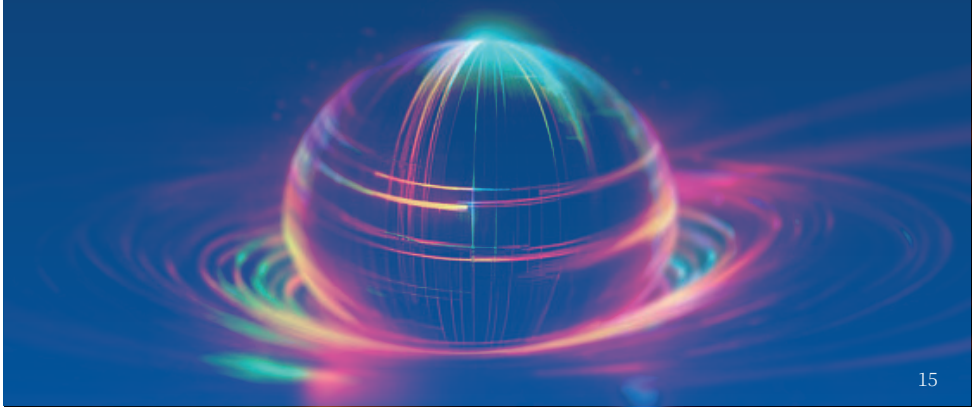
その情報をいち早く捉え、日本の受験生へ時差なく届けること。
それもまた、30年以上にわたりUSCPA教育と向き合ってきた
アビタスだからこそ持てる強みである。

日本のUSCPAスクールでありながら、
世界のUSCPA業界とつながっている。
それが、これからのアビタスの大きな競争力となる。

すべてが、一つにつながる
教材。講師。メソッド。サポート。テクノロジー。
そして、世界とのネットワーク。
そのすべてが揃って初めて、
合格占有率「95.4%」という数字が生まれる。
どれか一つが欠けても、この実績は成立しない。

そして、30年間積み上げてきたものは、決して「過去の実績」だけではない。
制度が変われば、教材を変える。
学習者が変われば、学び方を変える。テクノロジーが進化すれば、
教育そのものも進化する。
世界が変われば、その変化をいち早く捉え、日本へ届ける。
変化のたびに、先回りして進化する。

それが、アビタスが30年間守り続けてきた姿勢なのである。
アビタスがアビタスである理由だ。



「合格」の Before / After

ある日の選択が、人生を変えた瞬間の物語

今や香港の夜景を見上げる元マンション管理会社勤務の彼。
もう一度、自分の足で立つことを選んだ元薬剤師。
外資系CFOのあの日の決意。
上司の一言から世界基準の会計士へと歩みを進めたOL。
留学先での無力感をバネに変えた青年。
自分だけのキャリアを切り拓いたバックパッカー。
この資格でBig4への切符を掴んだ普通の女子大生。

彼らに共通しているのは、特別な才能でも、
恵まれた環境でもない。
ただ一つ、「変わりたい」という意志と、それを最後まで
手放さなかった継続力だけだ。

社会人としてキャリアの壁にぶつかった者も、学生として
自らの可能性を確かめようとした者も、
その意志を最後まで一人にしなかった場所が、アビタスだった。

8,200名という数字の向こうには、
8,200通りのBefore/Afterがある。
あなたの物語も、その一つに加わろうとしている。





Story 01

TOEIC400点から、香港の摩天楼へ

かつて彼は、マンション管理会社の一室で、
組合の決算書と向き合う日々を送っていた。
簿記は3級、英語力はTOEIC400点。会計の世界では、まだ何者でもなかった。
「いつか海外で働きたい」という漠然とした憧れだけを胸に、彼は残業続きの
仕事を辞め、アルバイトと派遣の仕事で生計を立てながら、
USCPAという未知の挑戦に踏み出す。

土曜も日曜も授業に通い、平日の夜は自習室の灯りの下で、
科目合格を一つずつ積み重ねていった。

3年目の春、最後の一科目に合格したその直後、
念願だった監査法人からの内定が届く。

上場企業の会計監査という仕事は、企業がまとめ上げた決算書を厳しく
読み解き、その数字の正しさを世界中の投資家に対して証明する仕事だ。
かつて自らの手で決算書を「作る側」にいた彼が、
今度はそれを「読み解き、検証する側」として世界と向き合い始めた瞬間だった。

物語は、そこで終わらない。
監査法人での経験を経て、彼はマレーシアの会計事務所へ。
そして今、彼が働いているのは、香港の大手監査法人だ。
かつて雑居ビルで学んだ一人の青年は、
今、アジア有数の金融都市の摩天楼で、次の専門性を磨き続けている。

Story 02

一度あきらめた夢の、その先に

日本で薬剤師として働いていた彼女には、
「いつか渡米したい」というもう一つの夢があった。
しかし実際には
「アメリカに住んでいても、薬剤師免許はそのままでは通用しない」
という現実に直面する。
積み上げてきたキャリアが、国境の前で立ち止まってしまった瞬間だった。

それでも彼女は、諦めなかった。
米銀行のカスタマーサービスとして働きながら、
金融の世界を内側から見つめるうちに、ある確信が芽生えていく。
「専門知識を武器に、もう一度自分の力で立てるのではないか」

彼女は、USCPAという新たな挑戦を選んだ。
現地の大学でオンライン単位を取得しながら、
あえてアビタスの日本語教材で学ぶ道を選んだのは、
「母国語で本質を理解してこそ、日米バイリンガルとしての強みが生きる」
と考えたからだった。



わずか1年。すべての科目に合格。
USCPAの学習を通じて自然と上がった
TOEIC910点というスコアとともに、
彼女は新しい自分と出会う。

学習を通じて得たのは、資格だけではなかった。一度は見失いかけた
「自分にはできる」という確信を、
彼女は自分自身の手で取り戻したのだ。

Story 03

一流のCFOも、すべての起点は「あの日の決意」だった



「将来はクロスボーダーな環境で働きたい」
まだキャリアの入口に立ったばかりの彼を
突き動かしていたのは、そんな漠然としながらも確かな一つの思いだった。
その思いを、単なる憧れで終わらせないために、
彼は仕事の核となる知識としてUSCPAへの挑戦を選ぶ。

そこから彼のキャリアは、驚くほどダイナミックに動き始めた。
20代で外資系コンサルティング会社へ転じ、
金融機関を相手にコンサルティングの経験を積む。

その後、海外の経営大学院へ留学し、帰国後はバイオベンチャーの一員として、
株式市場への上場という、企業人生でそう何度も出会えないスケールの
大きな局面に立ち会う。

国際標準の財務・会計知識という一本の軸は、彼が業界を越え、役割を越えて
可能性を広げ続けるための、揺るがないバックボーンになっていた。

そして今、彼は外資系製薬会社の日本法人でCFOを務めている。
しかもその職域は、財務という一領域にとどまらない。
サプライチェーンや事業開発というビジネスの根幹にまで、
その手を伸ばしている。
会計の知識を出発点に、経営そのものを動かす立場へ。

彼は、自らのキャリアを振り返るとき、迷わずこう言い切る。
すべての起点は、USCPAという一つの資格に挑もうとした、
あの日にあったのだと。

Story 04

「取っておくと強みになる」その一言から

大手監査法人でアドバイザリー業務に携わっていた彼女に、
USCPAという選択肢を示したのは、上司からのささやかな一言だった。
当初は目の前の業務に追われ、資格取得は遠い未来の話だと思っていた。

しかし、海外グループ会社や外資系企業が関わる案件に触れるたび、
日本基準だけでは説明できない壁にぶつかる。
US-GAAP、IFRS。
世界共通のものさしを持たなければ、この先の仕事は担えない。
そう痛感した日から、彼女の挑戦は始まった。

働きながらの学習期間は、1年1ヶ月。
通勤時間も、仕事終わりの数十分も、すべてを学びに変えて、
彼女は各科目を次々と突破していく。
英語に自信がありながらも、専門用語の習得には苦労した。
しかし、決して驕ることも屈することもなく、一つの教材を
繰り返し繰り返し理解し尽くすという地道な努力を貫いた。



合格後、彼女が得たのは
資格の証明書だけではない。
財務会計、監査、税務、ビジネス法、
ばらばらに見えていた実務の知識が、
一本の線でつながる感覚。
そして、
「自分は最後までやり抜ける」という、
何ものにも代えがたい自信だった。

Story 05

「無力感」を、最高の武器に変える



大学3年次、1年間のカナダ留学。
彼はそこで、思いがけない現実を
突きつけられる。
現地でのインターンシップで
痛感したのは、英語はあくまで
コミュニケーションの道具に
すぎず、それだけでは何の仕事も
できないという事実だった。

「英語以外に、何か一芸が欲しい」
帰国後もくすぶり続けたその焦りが、
大学1年で触れた簿記の講義の記憶と結びつき、
USCPAという挑戦に姿を変える。

「英語で会計を学ぶ」という経験そのものが、
彼にとって新しい発見の連続だった。
机に向かうたび、
「英語だとこう表現するのか」という小さな喜びが積み重なり、
挫折することなく全科目合格へとたどり着く。

新卒で税理士法人に入社しM&A業務を経験した後、
今は通信会社の財務部で資金調達を担う。

かつて「英語が話せるだけでは意味がない」と
打ちのめされた青年は、今、会計と英語という
二つの武器を携えて、経営の最前線に立っている。

Story 06

一人旅の向こうにあった、一生モノの資格

東南アジアを一人でバックパック旅行していたとき、
彼は偶然、一人の米国人公認会計士と出会う。
海外で働きたいという、彼の中にあった漠然とした夢が、
その一瞬で輪郭を持った。
「これこそが、一生モノの資格になる」
日本ではまだ挑戦する学生が少ないからこそ、
そこに希少な価値があると彼は直感した。

新卒一括採用という一本道に頼らず、自分の意志でキャリアを選び取る。
そう決めた彼は、在学中の取得を目指してアビタスとともに学習を継続し、
SNSを通じて全国の合格者たちの声を励みにしながら、
一人黙々と机に向かい続けた。

やがて手にしたのは、資格だけではない。
自分の行きたい国と分野を、自分の意志で選び取れる
「キャリアの主導権」だった。

彼は今、国際税務コンサルタントとして、
フィリピンをはじめとする
海外拠点での勤務も視野に
入れながら、自らの手で
キャリアを切り拓いている。





Story 07

「英語は大嫌い」だった彼女が、Big4の内定を掴むまで

高校時代、文法でつまずいて以来、
英語は彼女にとってずっと「大嫌いなもの」だった。

転機は、大学の教授のひと言だった。
日本の公認会計士より効率よく、市場価値の高い道がある。
そう聞いた瞬間、合理的な魅力を感じると同時に、心のどこかで思った。
「USCPAへの挑戦を通じて、この苦手意識を克服してやろう」
会計の専門用語さえ押さえれば、英文は読めるようになっていく。
その気づきが、彼女にとって「英語アレルギーは自信に変わる」という
体験そのものだった。

所属するゼミの先輩も、周囲の仲間も、目指す道は同じくアビタスだった。
「合格実績の9割がアビタス」という圧倒的な信頼が、
予備校選びに迷う時間を奪ってくれた。

学業やインターンと両立しながら、最短距離でFARの合格にたどり着いた
彼女は、「書類選考で一度も落ちたことがない」という確かな手応えを
感じながら就活を進めた。
難関資格に挑戦し、結果を出したというプロセスそのものが、
面接官からの信頼につながった。

「自分の時間をどう使うかで、未来は変わる」
「私でも、一流企業に内定できた!」
かつて英語が大嫌いで好きなことばかりに時間を使っていた彼女は、
今、そんな言葉を後輩たちに伝えている。

なぜ今、USCPAなのか
—— 世界基準という選択

ここまで、アビタスという企業と、そこに集った人々の物語を語ってきた。
最後に、**USCPAという資格そのものの価値**について、触れておきたい。

日本の公認会計士(JCPA)は、国内の監査業務を独占する最高峰の国家資格だ。
日本公認会計士協会の会員数は、およそ4万3千人。
長年、日本の経済を支え続けてきた尊いプロフェッションである。

一方、USCPA(米国公認会計士)はどうだろうか。
米国公認会計士協会の会員数は、65万人を超える。
日本一国の実に15倍近い規模を持つ、世界最大級の
プロフェッショナル・ネットワーク。
そして、USCPAが活躍する経済圏の規模は実に日本の約7倍。
USCPAの取得は、
その**巨大なエコシステムに参画するためのパスポート**を意味する。

ビジネスの国境が消滅した現代において、企業が求めるのは
「日本基準の枠内」だけで数字を処理する人材ではない。
US-GAAPやIFRSといった世界共通のルールを理解し、英語という言語を通じて
世界のビジネスパーソンと渡り合える人材だ。
だからこそ、
USCPAという一つの資格の先には、決まった一本道ではなく、
ダイナミックで無限のキャリアの選択肢が広がっている。

Big4・グローバルファームでのクロスボーダー案件

世界を牽引する巨大企業を相手に、グローバル監査や国際税務を担う。東京を拠点に海外チームと協働するだけでなく、ニューヨーク、ロンドン、香港といった世界の金融都市へ駐在し、グローバルファームの最前線で活躍する道。

外資系企業・グローバル企業のCFO(最高財務責任者)

単なる「経理・財務担当」の枠を超え、経営者の右腕としてビジネスを牽引する。クロスボーダーM&Aの推進、海外子会社のガバナンス構築、グローバルな資金調達など、数字を武器に企業戦略そのものをデザインする道。

投資銀行・FAS(財務アドバイザリー)のエキスパート

国境を越える企業の合併・買収(M&A)において、財務デューデリジェンスやバリュエーション(企業価値評価)の最前線に立つ。高度な英語力と会計知識が不可欠な、最もエキサイティングで市場価値の高い領域への挑戦。

急成長スタートアップのグローバル展開を支えるキーパーソン

海外市場への進出や、NASDAQなど海外市場でのIPO(新規株式公開)を目指すベンチャー企業において、海外投資家への対応やグローバルな資金調達をリードする。事業の急成長を財務面からブーストさせる道。

監査、M&A、経営企画、CFO...

USCPAは、業種や業界の壁を越え、ビジネスのあらゆる交差点に立つための

「最高の通行証」となる。

日本人のUSCPA合格者が着実に増加し続けている事実が、
この資格の圧倒的なポテンシャルを何よりも物語っている。

国内だけで完結するキャリアを選ぶか。
それとも、世界とつながるキャリアを選ぶか。

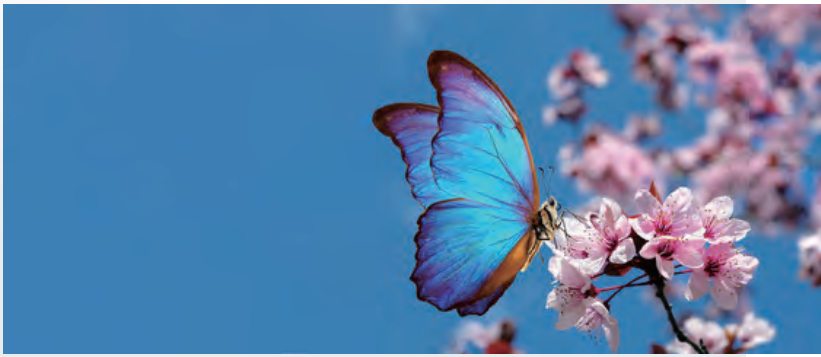
その答えは、もう出ている。

"As No.1"

かつて、日本という国そのものが、
世界にとっての一つの模範だった時代があった。
しかし、時代は変わってしまった。
一国の成功だけでは、もはや個人のキャリアや家族の幸せを守りきれない。
ビジネスが国境を越えるように、プロフェッショナルとしての価値もまた、
一つの国の枠を超えて証明されなければならない時代が、すでに訪れている。
"Japan as No.1" の時代は、静かに幕を閉じようとしている。
そして今、その先にあるのは―
あなたが自分自身でキャリアを切り開いていく時代だ。

会計士の世界では、
"USCPA as No.1" ともいえるのではないだろうか。
思いがけない出来事が、それを想起させた。

2027年度より日本の公認会計士試験そのものに、
英語による出題が導入されることが決まったのだ。
IFRS適用企業の拡大やグループ監査のグローバル化により、
日本の公認会計士にもまた、英語という武器が不可欠な時代が訪れた。
この歴史的な制度変更を前に、国内大手の資格予備校の一つ
「資格の大原」が、手を組む相手として選んだのは、他でもないアビタスだった。



「日本語で本質を理解し、英語でアウトプットする」

アビタスが30年かけて磨き上げてきたスモールユニット方式®の
日英併記メソッドは、**USCPA受験生だけのものではなくなった。**
日本の公認会計士を目指す受験生たちもまた、この学習ノウハウなくして、
新しい時代の試験を突破することが難しくなるのではないか。

かつて「USCPAという、日本にはなかった選択肢」を広めることから始まった
アビタスは、今、**「日本の公認会計士予備校にも頼られる
英語×会計の教育インフラの一つ」**へと姿を変えた。
これこそが、
"USCPA as No.1" が単なるスローガンではないという、何よりの証明である。
世界基準の会計教育は、もはやUSCPAという一つの資格の枠すら超えて、
日本の会計教育そのものの土台になろうとしているのではないだろうか。

一つの国だけに閉じた専門性ではなく、世界のどこにいても通用する
共通言語としての英文会計。
その武器を手にした者こそが、次の時代を切り拓いていく。
アビタスは、創業から30年以上、その志を一度も絶やすことなく、
次の世代へと受け継ぎながら、この確信を持ち続けてきた。
教材も、講師も、学習メソッドも、サポートも、テクノロジーも、世界とつながることも。
合格に必要なすべてを揃えた場所は、アビタス以外にない。

資格の取得は、ゴールではない。
自由なキャリアへのパスポートであると同時に、
果てしない進化へのスタートラインである。

もしあなたが、USCPAという選択をしたなら。
その選択は、正解だ。

そして、その武器をどこで手にするか迷ったなら…

Abitus as No.1

日本の USCPA(米国公認会計士) の 95% 以上が、
私たちアビタスの講義と教材で学んだ。
迷う理由はもう、どこにもない。
私たちは、これからも、
あなたが世界基準の舞台に立つその日まで、
共に歩み続ける。



Abitus

https://www.abitus.co.jp/uscpa

ver.1.0